

京都における自動車利用観光客の行動特性

福井工業大学大学院 学生員 ○喜田 将伍
いであ株式会社 正会員 片柳 澄明
福井工業大学 正会員 和田 章仁

1. はじめに

日本の伝統的な町並みを有している歴史都市には、多くの観光客が国内外から訪れる。近年、高速道路の整備、エコカーの導入など自動車交通に関する事情が改善されている。そこで、京都を対象として、自動車で来訪している観光客に着目し、自動車利用観光客の行動特性を把握するとともに公共交通機関への転換の可能性を探ることとした。

本研究では、京都市内に自動車で来訪する観光客を対象にアンケート調査を実施し、観光客の行動特性と公共交通機関への転換の可能性について明らかにするものである。

2. 調査概要

調査は、京都市営清水坂観光駐車場及び二条城駐車場において、平成23年9月23日(金)、24日(土)の2日間行った。調査方法としては、市営駐車場に京都ナンバー以外の自動車で来訪している観光客を対象にアンケート調査票を手渡しで配布し、回収は郵送とした。各駐車場で200票配布、合計400票配布した。回収数は175票であり、有効回収数は174票(有効回収率:43.5%)であった。アンケート内容は個人属性、訪問回数、滞在時間、全旅行日程、および他の交通手段への転換の可能性である。

3. 調査結果

(1) 観光客の居住地構成

自動車利用観光客の居住地構成を示したものが図-1である。近畿の割合が高いものの、東海・北陸も高い。また関東・甲信越や中国・四国も2割弱訪れていることがわかる。

(2) 自動車利用観光客の訪問回数

自動車利用観光客の訪問回数を示したものが図-2である。訪問回数では、京都に三回以上観光に訪れている割合が約8割であることから、リピーターが多いことがわかる。

(3) 居住地別にみた全旅行日程

居住地別の全旅行日程を示したものが図-3である。これをみると、近畿と東海・北陸は日帰りの割合が最も高く、関東・甲信越、中国・四国、その他は宿泊する旅行日程の割合が高い。

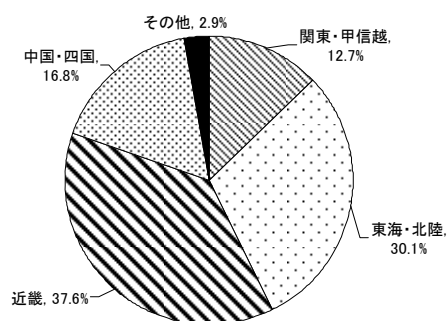


図-1 観光客の居住地構成

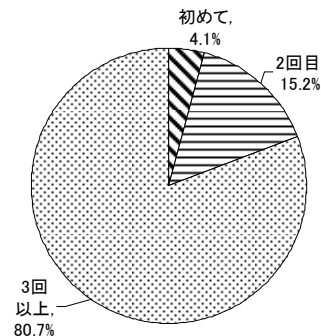


図-2 観光客の訪問回数

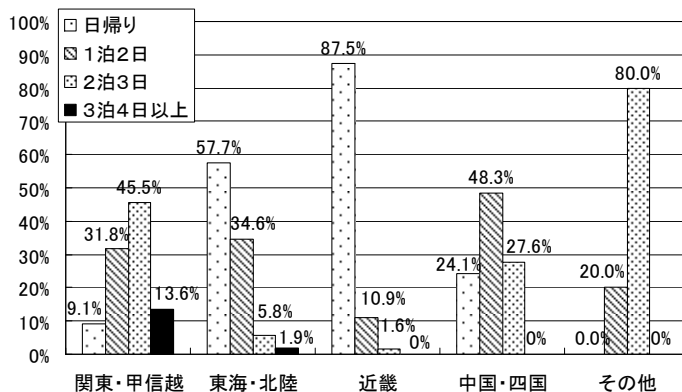


図-3 居住地別からみた全旅行日程

キーワード 観光, 自動車, 交通手段転換

連絡先〒910-8505 福井市学園3丁目6-1 福井工業大学土木環境工学科和田研究室内 TEL:0776-29-2620(代)(内2842)

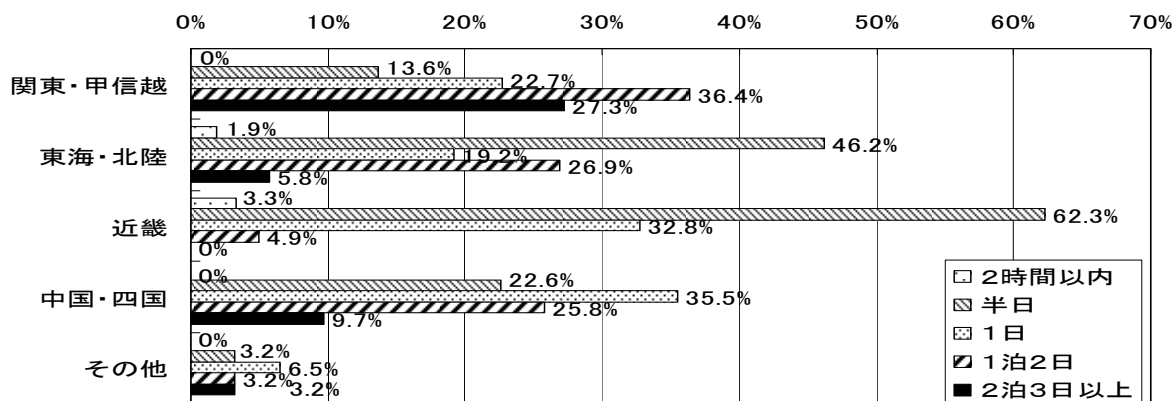


図-4 居住地別にみた京都の滞在時間

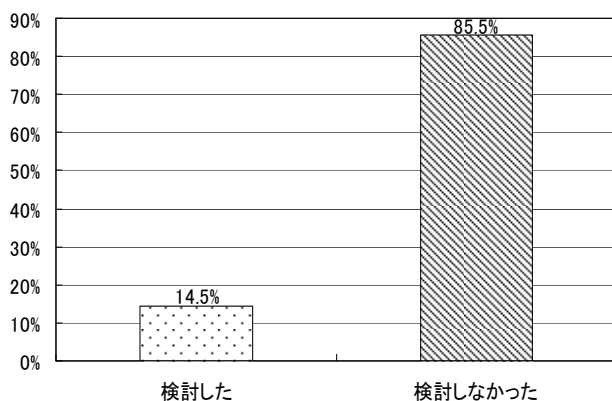


図-5 公共交通機関利用の検討

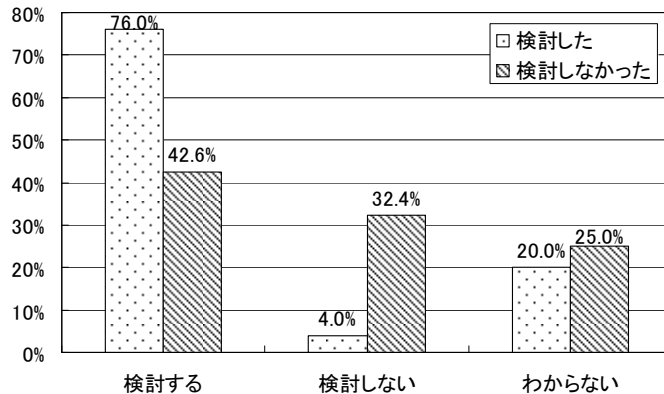


図-6 利便性向上による公共交通機関への転換

（４）居住地別にみた京都の滞在時間

居住地別にみた京都での滞在時間を示したものが図-4である。これを見ると、近畿や東海・北陸からの京都の滞在時間の割合は半日の割合が高く、半日程度で京都を観光していることがわかる。関東・甲信越からの観光客は1泊2日の割合が高く、中国・四国からの観光客は1日の割合が高い。これから関東・甲信越や中国・四国の観光客は京都で長時間観光されていることがわかる。また関東・甲信越や中国・四国、その他は2時間以内の滞在時間は皆無であった。

（５）公共交通機関への転換の可能性

アンケート回答者が事前に自動車から公共交通へ手段を検討するかどうかについて示したものが図-5である。これを見ると、検討しなかったが高い割合を示しているが、14%の観光客は検討したことがわかる。さらに公共交通機関の利便性向上による交通手段転換を示したものが図-6である。公共交通機関の利便性が向上すれば、図-5で検討すると答えた回答者は公共交通機関を検討する割合が76%にのぼっている。一方、検討しなかったと答えた回答者は公共交通機関の利便性が向上すれば、約4割が公共交通機関を検討することがわかった。

4. まとめ

京都市へ自動車を利用して訪れた観光客を対象として観光交通に関するアンケート調査を行った結果、近畿や東海・北陸の観光客は日帰り旅行の割合が高く、半日程度の観光を目的としていることがわかった。また関東・甲信越や中国・四国、その他は宿泊する割合が高く、長時間観光している。京都への訪問回数では、京都に三回以上観光に訪れている割合が高く、リピーターが多いことがわかった。公共交通機関利用の検討では、事前に検討しなかった割合が高いものの、公共交通機関の利便性が向上すれば、公共交通を検討する観光客は高い割合で検討することがわかった。また事前に検討していない回答者においても利便性が向上すれば、公共交通機関を検討することがわかった。

以上のことから、観光活性化を図るためには、上松らによって交通手段を自動車から公共交通機関へ転換させることが重要と考えられている¹⁾ことから、今後は公共交通機関の利便性をより一層高める必要があると考える。

参考文献

- 1) 上松清治・片柳澄明・和田章仁：観光旅行における交通手段に関する考察-飛騨高山を事例として-, HOSPITALITY, 第18号, pp.203~208, 2011